

代々木病院の理念

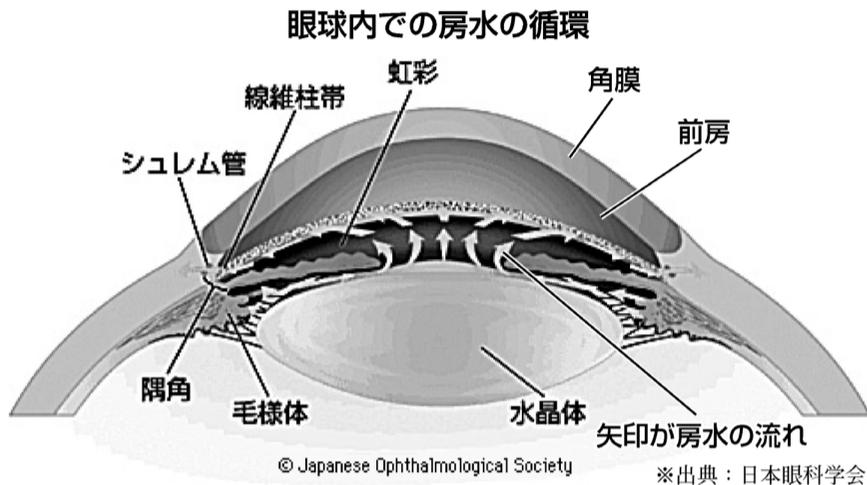
ヒューマニズムにもとづく医療・介護の実践

くらしと健康

No. 616 2019年 2月号 1部60円 発行 東京勤労者医療会代々木病院 院長 河邊 博正

緑内障のはなし

眼科外来



視野が狭くなるなどの視覚障害を発症し、場合によっては失明に至ると恐れられてきた緑内障。今回はこの病気について眼科の山城博子医師がお話をいたします。



山城博子医師

失明？進行は遅らせられます

緑内障＝失明？

「緑内障です」とお話しするとすくさま「緑内障って失明する病気ですよ」と答える方が多いのですが、それは大いなる誤解です。確かに失明に至る場合もありますが、そうでない場合の方が圧倒的に多いのです。一口に緑内障といってもいろいろなタイプがあり、それによって経過も治療法も異なります。ここではよくある2つのタイプ...

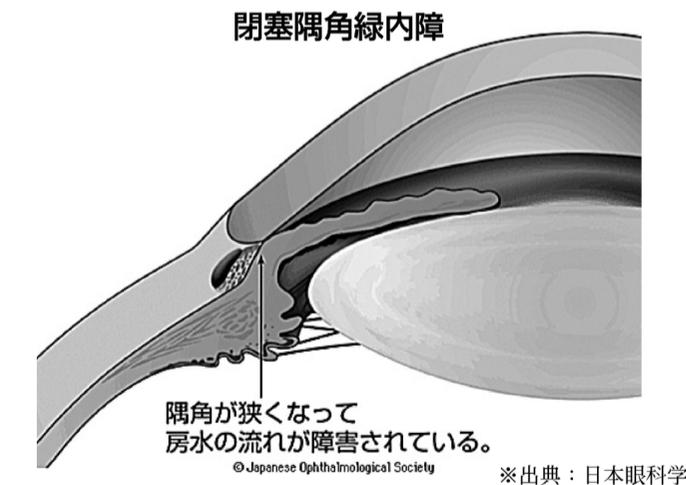
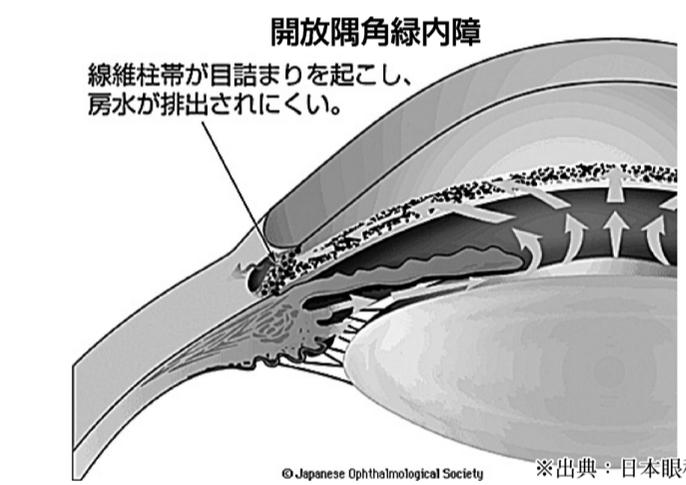
開放隅角緑内障

開放隅角緑内障（正常眼圧緑内障も含む）は初期にはこれといった症状がなく、健診で偶然見つかることが多いタイプです。慢性的に経過し点眼で治療することが多いですが、点眼だけで進行してしまう場合は手術をすることもあります。

このタイプの緑内障は、もともと遠視の方が多く、発作を起こしやすいかどうかは事前に予測することができません。発作が起こらないうちにレーザーを受けることにより、予防することが可能です。

また白内障がある程度進行していれば、白内障の手術を受けることにより発作は起こさなくなり、放っておくと失明してしまうことがあります。発作が起きたときは眼圧が高くなっており、眼圧を下げるための点滴・点眼・レーザーなどの治療を行います。

緑内障の治療に白内障手術？と疑問に思われる方も多いと思いますが、白内障手術をすることにより眼の中の前房という水がたまっていて、レーザーが広がり、発作を起こさなくなるのです。



検査で早期発見を 40歳以上の20人に1人は緑内障といわれています。眼科で検査をうけ早めに見つけることが大切です。



検査を受け早期発見を

千駄の萱

昭和48年生まれの私が小中学生のころは、新宿西口の「モザイク通り」の入口（京王デパートと小田急百貨店の間）に、片手や片足の無い戦闘帽と軍服姿の団体が募金を訴えていたものだ。見かけた時は嫌な気分がして目を背けた▼小学校3年生くらいの時の代用教員の片手指は戦争中に手りゅう弾でやられて変形し指が3本だった。第一印象は怖かったがとても優しい先生。戦争なんてまっぴらごめんだと思っちゃった▼かつては戦争の恐ろしさが戦争への抑止力の一つとなっていたが現代は戦争への記憶と恐怖が薄れていくなかタガが外れつつあり不安が高まる▼今年はアジア・太平洋戦争が終結して74年。被爆者の平均年齢は80歳を超え、戦後生まれの人口が戦前生まれ世代を上回る。欧米諸国では「自国第一主義」が蔓延し、きな臭い。安倍自民党政権は一部の護衛艦を空母化し周辺国との緊張感を高める。こういう時代だからこそ、戦後74年日本の平和を守ってきた日本国憲法の存在は大きい。平和は積極的に関わらなければ守りと通せない。今まさにこの実践が求められている。我々は時代に試されているのだ。(た)